レッスン：SPA.NO.11

テーマ：多様性と意識

SPA11.DOC/PYRMY/12.KE5/SE

私の姉妹・兄弟たち

スピリット、光、火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

今夜はもう少し生の多様性についてお話しましょう。確かに一つの絶対存在がありますが、それは多様性というステートです。唯一の絶対的生がありますが、それは多様性というステート（＊状態）にあり、さらにまた現れ、表現されたものとしての生があります。そして現れとしての生は魂のセルフ・エピグノシスであり、その現れは人間のイデアによるものです。創造の諸世界には生としての人間が存在します。

多様性は生それ自体の主な特徴の一つです。創造の諸世界に生の現れがあるように、そこには生によって表現されている多様性という特質があります。

以前のレッスンで述べたように、多様性はまた生の現象によって、現在のパーソナリティーとしての人間によっても表現されます。人間が無知にある間は、意識的ではなく無意識的に多様性を表現している、と述べてきました。現在のパーソナリティーが自己実現のレベルに到達すると、人間はこの（＊多様性という）特質を超意識的に表現するようになります。そしてエクソマトシスのステートについて述べました。

それはどういう意味でしょうか？人間が肉体とは異なった体として自分のサイコノエティカル体を使用できるようになり、

意識であるセルフ・エピグノシスの大部分がそちらの体、いわゆるサイコノエティカル体に移送されると、

そしてそのパーソナリティーがその体を使用しているとき、そのパーソナリティーは助けを提供するために必要なだけいくつでも同一体を創造することができます。そのパーソナリティーは特定の目的以外に同一体を創造することはなく、その唯一の目的とは自分の同胞である人間を助けることです。

**その時には意識であるセルフ・エピグノシスは全ての同一体に同じように移送され、同一体の数には関係なく、量的にも質的にも平等に移送されると述べました。その質と量はサイコノエティカル体が一つであるときと同じです。**

ですから、その場合、サイコノエティカル体は多様性の状態において一つであるわけです。

一つと言いましたが、しかしそこには多くの同一体があります。なぜ、私たちはそれを一つとみなすのでしょうか？なぜなら、それら全てが一つの現在のパーソナリティーだからです。もし私たちがそのうちの一つの同一体に出会うとき、それはその現在のパーソナリティーに出会っているのであり、もしそれら全ての同一体に出会っていても、その一つの現在のパーソナリティーに出会っているのです。全ての同一体の黙想(contemplation)は同じであり、中心（元）の黙想は実際一つです。しかしまた、多様性におけるそのモナドの黙想があります。なぜなら、それらの一つ一つの同一体はそれぞれ特定の仕事をしており、その間それらにはそれ自身の特定の黙想があり、それぞれの特定の黙想はその特定のパーソナリティーの中心（元）の黙想に含まれるのです。

それが完全に表現されたとき、それは現在のパーソナリティーの多様性ということです。それでは、それぞれの特定の目的のためにより多くの同一体を創造するということを除いて、

**サイコノエティカル体の能力とは何でしょうか？**他にも多様性を表現する能力があるでしょうか？勿論あります。**より多くの同一体を創造すること以外にも、無数のエレメンタルを創造することができ、それもまた同胞の人間のためです。サイコノエティカル体によって無数のエレメンタルを創造することができ、それも実際現在のパーソナリティーなのです。**

実際、魂のセルフ・エピグノシスによって表現される多様性は生であり、そこには限界、境界、ニーズ（＊他に何かを求める必要性）もありません。魂のセルフ・エピグノシスは存在の諸世界のなかでそれ自身を表現しています。生はどのような多様性を表現しているでしょうか？魂のセルフ・エピグノシスとしての生は体を必要とすると思いますか？そのような魂は体を有しているでしょうか？

Page2

かつて魂の体について述べたことがありますが、実際、

**魂はいかなる体も有していません**。魂のセルフ・エピグノシス、それは人間のイデアを通じた生の表現なのですが、それはフォームを有しています。人間のイデアという特定のイデアとしてのフォームです。限界、境界がなく体もありません。つまり、生（Life）はマインドによって…いかなるバイブレーションのマインドであろうとも…マインドによって制限されるということがありません。

存在の諸ヘブンにおける多様性についてはどうでしょうか？生によってどのような多様性が表現されているのでしょうか？なぜなら私たちは現れの諸世界にいるからです。そのステートでは生はあらゆるところにあり、創造界、現れのなかにある全てはモナドとしての生(Monad Life)、各モナドとしての生のなかにあります。この現実を理解するのは非常に困難なことです。生はあらゆるところにあり、境界がなく、全てのヘブンはモナドのなかにあり、そのモナドは最小のなかにさえあるのです。

それでは多様性についてはどうでしょうか？そこにおいては、**多様性は同化によって表現されていますが、それを多様性の表現としてみなすために必要なものは、その「モナドとしての生」(Monad Life)という存在の注意(attention)です。何が注意を引き寄せるのでしょうか？援助、助けるという必要性です。助けるという必要性があるところではどこでも、生それ自体の注意が引き寄せられます。どのぐらいの多くの“場所”で？数を越えた無数の場所であり、その能力には限界が全くありません。現れとしての生の多様性は、そのように表現されています。自己実現をする前の魂のセルフ・エピグノシスの生の現れはそのようになっています。なぜなら、自己実現後における多様性の現れはそれとは異なっているからです。**

自己実現すると、魂のセルフ・エピグノシスは実存の諸世界においてさえも多様性を表現することができ、生の現象のなかで人間を助けるために、必要なだけパーソナリティーを物質化することができます。異なった様々な場所で多くのパーソナリティーを物質化し、非物質化することができます。ですから、そのような違いがあります。自己実現する前および後で、生からの多様性の現れがあります。

意識の純粋な現れとしての生によって表現される多様性についてはどうでしょうか？それは私たちの兄弟であるアークエンジェルの現れです。彼らはプログラムされたセルフ・エピグノシスを有する意識の現れであり、このプログラムされたセルフ・エピグノシスはそれぞれのオーダーにおいて行う彼らの仕事によって分別されます。ミカエル、ガブリエル、ラファエル、ウリエルなどです。

彼らはどのような多様性を表現しているのでしょうか？彼らは自己実現以前の魂のセルフ・エピグノシスの多様性と非常に似ている多様性を表現しています。しかし、何らかの違いがあり、その違いとはプログラムされたセルフ・エピグノシスの結果です。魂のセルフ・エピグノシスにはセルフ・エピグノシスに関していかなる制限もありません。人間のイデアを通過したロゴス的現れにおける唯一の制限とは、生が完全に表現されておらず限界のなかにいる意識です。私たちには勿論生の現象があり、その現象内において限界、制限のある意識があります。その結果として、異なった様々なレベルでセルフ・エピグノシスが表現されています。実際、セルフ・エピグノシスは人間のイデアによるものです。

ですから、魂のセルフ・エピグノシスはプログラムされたセルフ・エピグノシスではありません；アークエンジェルのセルフ・エピグノシスはプログラムされたセルフ・エピグノシスであり、彼らは神の黙想の動きのなかで彼らが提供しているそれぞれの仕事に従って、多様性を表現しています。そして、この動きは創造であり、創造界において生じているあらゆるものです。

このような特質の結果として、アークエンジェルは何を創造するのでしょうか？彼らは魂のセルフ・エピグノシスと全く同じように同一体を創造することができるでしょうか？ここで同一体と言うとき、その意味するものは何かを必要としている何かの上に注意を現わすことであり、それ以外の何ものでもありません。なぜなら、実際、**存在の諸世界では全ては全てのなかにあり**、何かにフォーカスするということなのです。

アークエンジェル、および彼らがやるべき特定の仕事についてはどうでしょうか？以前、動物界および植物界としての生のあらゆるフォームは、私たちの兄弟であるアークエンジェルによる創造であると述べました。それはどのように行われるのでしょうか？オーダーとして、およびドミニオン（＊支配、統制などの意）としてのアークエンジェルにはそれ自身の聖なる黙想があり、それは絶対存在の聖なる黙想と少しも変わりません。そして黙想しながら彼らは他の現れを創造しています。それはエレメンタルでしょうか？それをエレメンタルと呼ぶことはできません。なぜなら、それらは生きており、それらの創造物は永遠のなかの生きた実体だからです。それらは想念の結果ではなく、聖なる黙想の結果であり、それらの現れはエンジェルと呼ばれています。

Page3

ですから、アークエンジェルは生の多様性という能力を有し、最大のなかにあって同時に最小のものにフォーカスすることができ、また他の生きている存在を創造することもできます。なぜなら、それらはエンジェルと呼ばれる存在だからです。ですから、アークエンジェルはサイコノエティカル界でもなく、生それ自体の世界つまり存在の世界でもなく、生の現象の世界において、究極的には物質界において生の他のフォームを創造しています。そして、それらの生のフォームはほかでもない植物界および動物界なのです。

それらは生きている実体、存在でしょうか？実際、それらは生きているものであり、それ以外の何ものでもありません。なぜなら、それらは特定のアークエンジェルの生の息吹を有しているからです。そして、特定のアークエンジェルと言う場合、それはモナドとしてのアークエンジェルではなく、グループあるいはオーダーを意味し、あるいはまたエンジェルのグループを意味します。

エンジェルたちはこの多様性という特質を表現しているでしょうか？そのとおりです、そして彼らは直接アークエンジェルによってではなく、エンジェルによってプログラムされた他の生物を創造します。これがどんどん続き、創造界において最小のものを担当する生の現れがあります。それは勿論、原子内の最小のものであり、原子でさえ最小の存在ではありません。そしてその最小の存在のために生の創造を担っている無数の生きているフォームがあるのです。

これら全てが私たちの兄弟であるアークエンジェルの多様性です。それでは再び魂のセルフ・エピグノシスに戻りましょう。魂は生であり、以前述べたように魂のセルフ・エピグノシスにはプログラムされたセルフ・エピグノシスという限界がありません。魂のセルフ・エピグノシスは多様性という特質に関して、アークエンジェルが行っていることを何でも表現することができるでしょうか？魂のセルフ・エピグノシスは存在としてのエンジェルを創造することができるでしょうか？答えは勿論イエスです。なぜでしょうか？なぜなら、ロゴス的現れである人間は同時に聖霊的現れでもあるからです。人間は同時にアークエンジェル、プログラムされたセルフ・エピグノシスという制限・限界を持たないアークエンジェルなのです。人間は、特に魂のセルフ・エピグノシスが自己実現したときには、アークエンジェルが創造し、表現するものなら何でも創造することが可能であるのみならず、魂のセルフ・エピグノシスはアークエンジェルの全てのオーダーが創造し、表現できることなら何でも創造することができるのです。そこには限界がありません。

勿論、アークエンジェルのそれぞれのオーダーにとってそれは不可能です。例えば、ミカエルは特定の仕事に奉仕するエンジェルだけを創造することができ、ラファエル、ウリエル、ガブリエルについても同じです。しかし、人間はミカエルが表現し、創造するエンジェルと同じようなエンジェルを創造し、表現することができ、またガブリエル、ウリエルその他が創造し、表現するエンジェルをも創造、表現することができるのです。人間には限界がありません。人間はまた動物に生を与えることができ、生きているもの、実体、存在を創造することができます。どのぐらい多く創造できるのでしょうか？数に制限はなく、いくらでも創造することができます。

私はいま生それ自体としての人間について話しています。なぜなら、魂のセルフ・エピグノシスは生であり、スピリット存在、絶対存在の多様性のなかのモナド、神自身としての最内奥の特質を完全に表現しているからです。ですから、人間のイデアと純粋意識の現れのイデア、いわゆる聖霊的現れあるいはダイナミックな現れの間にはこのような違いがあります。

それでは全体で一つとしての絶対存在についてはどうでしょうか？この多様性におけるモナドの現れについて話しましたが、全体で一つとしての絶対生についてはどうでしょうか？このモナド存在は一つとしてのそれ自身のなかでどのようにしてそれ自身を表現するのでしょうか？それはそれ自身を多様性として表現すると述べました。それがその本質です。しかし、一つのモナドとしてそれはどのように表現されるのでしょうか？唯一の神、唯一の絶対存在があります。それはどのように表現されるのでしょうか？

Page 4

以前、絶対存在は一つであるがその本質、つまりその英知、その善、そのパワーという特質があると述べました。三つの主な特質があるわけですが、そのうちの一つが表現されると、それら三つの特徴が表現され、パワーを有する絶対善があるのです。それ（＊パワーを有する絶対善）は三角形または絶対存在の三角形における最上部の三角形によって示されている絶対存在のロゴス的部分です。そしてこの三角形のゆえに絶対存在のロゴス的現れが創造界に下降しています。それは神の聖なる黙想における動き、運動としてあり、それが実際に生じていることなのです。そしてパワーおよび同時に絶対善を表現している、汎宇宙的キリストロゴスがあるのです。

それでは絶対英知についてはどうでしょうか？しかし、絶対善が表現されるためには、それに絶対英知が伴う必要があり、絶対英知が伴わなければ絶対善を現すことはできません。ですから、二つの特質について触れてきました；それでは三つ目の特質、絶対パワーについてはどうでしょうか？絶対パワーはその表現のイデアを通じて表現されます。なぜなら、絶対生は絶対意識だからです。ですから、絶対存在のダイナミックな表現のなかにある聖霊的現れがあるのです。

ロゴス的現れについてはどうでしょうか？ロゴス的現れには意識、生それ自体、絶対意識の現れとしてのロゴス的現れがあり、それに自己実現の能力を与える質が伴っています。しかし、この生のスパークはそれ自体のなかにそのパワーを有しており、それはそこから引き出されます。それがロゴス的現れです；それゆえに私たちのなかには、あらゆる人間のなかには神、生それ自身のスパークが存在するのです。

ですから、創造界における絶対存在の多様性は様々なフォームで表現されています。創造の諸世界において多様性を表現しているモナドの現れがあり、またそれ自身の多様性を表現している絶対存在のワンネス(oneness)があります。それ（＊絶対存在のワンネスによって表現されている多様性）はそれ自身のなかに拡散しており、全ては神の英知、善、パワーのなかで、神のアウタルキー（＊自己充足状態）のなかで遊泳しています。

これが絶対存在のワンネスの多様性であり、それ自身のアウタルキーのなかで特定のポジション、特定の場所への集中というものではありません。絶対存在はそれ自身のなかにおける最小のなかにも最大のなかにも存在します。なぜならあらゆるものは、（＊絶対存在）それ自身のなかに存在するからです。多様性については話すことがたくさんあり、これで全てということはありません。

私は常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

質問：聖霊であるアークエンジェルは、いつか人間のイデアを通じて下降することができるのでしょうか？

Ｋ：勿論です。彼らは聖霊のイデアを通じて、アークエンジェルである間でも意識を表現しています。彼らは特定の仕事、創造界において彼らを現れとして活性化させる生のスパークを遂行する必要があり、またスピリット存在としての最内奥のセルフに戻る必要があります。そして、もしそのスピリット存在が神の特定の黙想のなかに入るなら、人間のイデアを通じてそれ自身から微細なスパークを現すためにブレーシス（＊神の意思）を表現するかどうかは、モナドであるスピリット存在次第です。何かに強制されるということはありません。何ものも、モナドであるスピリット存在が神の黙想の特定の部分に入るよう強いることはしません。なぜなら、神の黙想は永遠に続き、この神の黙想に終わりはないからです。神の黙想のどの部分に集中するかはそれぞれのスピリット存在次第であり、その集中の結果としてそれ自身からの微細なスパークが特定のイデア、つまりロゴス的あるいは聖霊的イデアを通じて投射されるのです。

Page 5

質問：そしてロゴス的なものもまた聖霊的なのでしょうか？

Ｋ：ロゴス的なものは同時に聖霊的でもあります。なぜ聖霊的なのでしょうか？なぜなら、生は意識によって特徴づけられるからです。生はただ意識のみである、とは言いませんが、それは意識によって特徴づけられています。意識なしでは生はあり得ません。私たちが述べた絶対存在は絶対意識です。

質問：それでは他に何であるのでしょうか…。

Ｋ：他に何？わかりません。絶対存在が何であるかをいかにして知りえるでしょうか？誰も知りません。私たち人間だけが知らないのではありません。もしあなたが生であるモナド・セルフに尋ねたとしても…生であるモナド・セルフと言うとき、それは魂のセルフ・エピグノシスあるいはアークエンジェルを意味しますが…絶対存在が何であるか知らないでしょう。一体どうして知りえるでしょう。これは完全に私の個人的信念ですが、たとえあなたが尋ねても、絶対存在の多様性のなかのモナドであるスピリット存在がそれについて質問を受けたとしても、そのスピリットでさえ全体としての絶対存在が何であるかを説明できないでしょう。私たちが絶対存在について考えるとき、それは創造の諸世界に表現されている結果なのですが、実際に絶対存在が何であるかについては何も言うことができません。

存在の諸世界における生それ自身について経験に基づいて話すことができない時、いかにして絶対存在について知りえるでしょうか？上の四つのヘブンに関する経験的知識を持っている人間はいません。そこでは生は魂のセルフ・エピグノシスとして完全に表現されており、そこは全てが全てのなかにある世界です。**どこまで成長しても現在のパーソナリティーがそこに現れるということはありません**。

**一度永遠のアトムが完全に永遠のパーソナリティーに戻ると、転生のサイクルにおける現在のパーソナリティーとして現れることはありません。それら上のヘブンを訪れ、同時に転生のサイクルのなかにいることが、いかにして可能でしょうか？それは不可能です。ですから、繰り返しになりますが、存在の世界、生それ自体の世界を訪れている、または魂のセルフ・エピグノシスと同化していると主張し、しかも今なおここにいるパーソナリティーたち、彼らが体験しているのはイリュージョン以外の何ものでもありません。**

いかなる現在のパーソナリティーといえども…たとえ自己実現のレベルに到達しても…自分自身のために転生のサイクルを去ることはしません。なぜなら、現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーの自己実現に到達し、（最内奥の生、スピリットとしての最内奥のセルフではなく）生、現れとしての生の特質の多くを表現するようになると、その時そのパーソナリティーは多くの愛を現わすようになり、そのようなパーソナリティーはとりわけ苦しんでいる同胞の人間を背後に残したまま存在の諸世界に入ることは決してありません。そして、かつて述べたように、最初にこのポジション、つまり最初の磔に到達した人はそれを越える最後の人となることでしょう。それは特定の惑星上でのことを意味しています。

私たちは今、特定の惑星上におけるミクロコスモスについて述べています。地球という惑星を例に取ると、最初に到達した人は最後に去る人です。地球上にはそのレベルに到達した同胞の人間たちがいますが、そこを超えて向こうに渡った人は誰もいません。彼らは地球の様々な場所で私たちと共にいます。彼らのなかにはこれらのバイブレーション（＊物質界）のなかにいたり、あるいはサイコノエティカル界にいる人もいますが、それは問題ではありません。彼らは超意識的に自分自身を現わしながら、転生のサイクルのなかで待っています。しかし、同時に他の人々が理解できるよう、人々が受け入れることができるよう、そして人々を助けることができるように自分たちのバイブレーションを下げるのです。そこを超えて行った人は誰もいません。地球上の全人類がそこを超える用意ができるまでは、誰も超えて行くことはないでしょう。そして、私たちが全体として超える用意ができても、私たちは超えることはしません。なぜならば、宇宙における別の人類が自己実現したパーソナリティーの特定の仕事を必要としており、私たちには一つの惑星として他の惑星に助けを与える仕事があるからです。

この地球上の人類全体としての人間は…物質化および非物質化の能力を持つようになり、人類全体としての人間は超意識のセルフ・エピグノシスと呼ばれるセルフ・エピグノシスを表現するようになるでしょう。そのようになると、この様々な宇宙におけるいかなる場所、ポジションへも集中することが可能となり、神の愛を提供できるようになります。そして、様々な宇宙において神の愛を現わすようになって初めて、ひとつの惑星上の人間全体が存在の諸世界に入るようになるのです。そうです、個人はそこに到達するようになります。そして、かつて述べたように、違いも、距離も、意味もありません。存在、生それ自体の諸世界には意味というものが存在しません。あなたがそこに到達するということは、あらゆるところに到達するのと同じです。しかしあなたは生の特質の結果として、そこに入りません。生には絶対英知、絶対善、絶対パワーという特質があります。

Page 6

質問：アークエンジェルは神の黙想を表現したことはない、とあなたは言いますが、それは彼らが表現するものを創造するという意味で想念形態を現わすという意味でしょうか…。

Ｋ：想念形態、エレメンタルを現わすためにはノエティカル体が必要です。なぜなら、思考、想念の中心はノエティカル体だからです。しかし、アークエンジェルはノエティカル体を必要とせず、実際いかなる体も使いません。アークエンジェル、つまり生それ自体によって表現されるもの…なぜなら、アークエンジェルは生それ自体の現れだから…それは神の黙想以外のなにものでもありません。そのように言いましょう。なぜなら、あなたが述べたように、彼らは決してアウタルキーを去ることはありません。私たちの魂のセルフ・エピグノシスについても同様で、魂のセルフ・エピグノシスは決してアウタルキーを離れることはありません。ですから、、生が創造するものは何であれ生の現象によって創造されたものと比較することはできません。

質問：しかし、彼らがそのセルフ・エピグノシスによって表現するものはいずれにしてもその表現の目的に制限されており、彼らはどんな想念形態も持たないのではないですか？

Ｋ：それは想念、思考ではなく、彼らの特定の黙想の結果です。瞑想ですらなく、黙想です。瞑想とは生の現象としての人間のものであり、黙想とは生それ自体のものです。

質問：生の息吹を有する創造についてはどうでしょうか？それらは多かれ少なかれアークエンジェルによって、あるいは特定の種として存在しています。それらは想念形態を現わしているのでしょうか…。

Ｋ：現わしていません。それらは生の現象のなかでさえも想念形態を現わしていません。

質問：それでは、それはスーパーサブスタンスとしてのマインドを使って表現しているのでしょうか…。

Ｋ：関係はあります。あなたが生の息吹を与えると、その表現つまりあなたの息吹による存在はあなたと意識的につながります。それゆえに、動物界および植物界はそれ自身の意識をもっていないのです。個々の現れはそれらを創造したもの、それを現わしたものとは別個の意識をもっているわけではありません。いいですか、私たちが意識と言うとき、神の黙想全体に提供するためにその特定の現れが果たす役割に従って、様々なレベルの意識があります。それゆえに、様々な本能レベルにおける意識があり、動物および植物の様々な形態における意識があるのです。なぜなら、さもなければ、これら全ての生の現れにおいて同じレベルの本能が表現されることになります。本能においてさえ様々な異なったレベルがあり、非常に高レベルの本能の現れもあります。動物界および植物界の意識においては高いレベルはありません。それら全ては様々なレベルの本能の現れであり、それはそれらを創造したアークエンジェルとつながっている意識です。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/SPA11.DOC/KE5M/12/SE